

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2071400341		
法人名	株式会社 ふくし館		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	長野県茅野市湖東7050-1		
自己評価作成日	平成21年11月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2071400341&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2071400341&amp;SCD=320</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月20日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市と協力し最初のグループホームとして設立された。住宅地より離れて建つ当ホームは田んぼと雑木林に囲まれ遠くに八ヶ岳が眺められ、居ながらにして四季を満喫できる。ホーム外の敷地も広く、外での畑作業、行事等行われ、マキもつみあげられている。生活の様子は写真に収め、一人ひとりの生活歴アルバムも作っている。(絵本風のアルバム)  
職員育成に関しては、介護の勉強以外のことに知識や教養を高めている。  
新しい理念の下、更に地域との交流を深めるための努力をしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは高台に新興住宅を望み、周辺は田んぼと雑木林に囲まれ地域の人々に馴染みの八ヶ岳が遠望できる風向明媚な環境の良い地に設置されている。年々増加傾向にあり認知症の方々のニーズが刻々と変化する中ホームの必要性を認識し、事業者は高齢者福祉事業に参画するため早い時点から熱意を持って市に働きかけ協力を得ながら開設されている。管理者は福祉の専門性と多彩な趣味(油絵・キルト制作・フルート奏者等)を持ち合わせ職員の指導にあたられるとともに職員と話し合いのもと作り上げた、地域密着型サービスとしての理念を下に、ホームの確実な質の確保と向上に努められている。入居に当たりご家族が心配しておられる終末期の看取りについても、終末期の意向確認書や事前指定書を作成し安心して納めて過していただけるよう支援がされている。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(鈴棟)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名( 蘭棟 )			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の会議と午後の引継ぎ、毎月の職員会議等で日々のケアを話し合い職員の意識合わせや確認を行っている。管理者は日々の様子を視たり、毎日リーダーから報告を受けながら理念の実践に向け助言している。	入居者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援していくサービスについての意義を職員全員で確認し、具体化されたホーム理念を作り上げている。管理者は日々の中で職員と話し合い意見の統一を図り、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会と連携し資源を活用しながらホームを開放している。理科大学生や高校生の実習現場として受け入れを続けている。歌、踊り、楽器の演奏など習い事の発表場所としての訪問や見学に訪れる数も増えており住民との交流の機会は多くなっている。	社会福祉協議会との連携を図り、資源を活用しながらホームを開放されている。歌・踊り・楽器演奏など習い事の発表場所として提供し地域の方々との積極的な交流に努められている。なお理科大学生や高校生の実習現場としての受け入れも行い継続されている。また日常的な散歩や買い物に出かけ地域の人々とふれ合うと共に、お花を届けて頂くなど地域住民と交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の人と家族の会」の冊子を参考に家族会との勉強会を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、市の介護保健課等の意見を聴きサービスの向上を図っている。自己評価、外部評価結果も会議で報告している。	入居者・ご家族・地域住民の代表・茅野市職員等の参加の下年度事業計画・実施事業・入居者状況・サービス状況等を報告し、参加者より質問・要望・意見を頂き、双方向的な会議が行われている。なお自己評価・外部評価の結果も報告されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か不明なことや困ることがあれば出かけて行き相談している。行政担当者とは気軽に相談できる関係が出来ている。	入居に当たり処遇困難事例について行政担当者に相談をされている。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がもたらす弊害について職員がよく理解している。	職員会議において高齢者の権利擁護・成年後見制度の研修を行うとともに、身体拘束廃止についての話し合いを持ち理解浸透や遵守に向けた取り組みが行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての職員研修会を開き、身体拘束廃止について話し合いをしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について研修会を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に先立ち家族等と十分な話し合いを行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通じ意見を集約し、それらを運営に反映している。	運営推進会議や家族会において入居者、ご家族の意見表出の場が設けられ、得られた意見などを職員会議で話し合いサービスに反映されている。なお職員は日常の寄り添いのケアの中より入居者の思いや要望の把握に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会において、意見や提案を聴く機会を設けている。	毎月開催される職員会議や食事会において、意見や提案を聞く機会を設け出された意見等を運営に反映されている。なお毎月の給料受け取り時に意見等を気軽に表出できる場面も設けられている。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が必要に応じて個々の職員と食事会を行い、本人の希望等を取り入れるように努めている。</p>		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会には積極的に参加させ本人の技能等の向上を図っている。また日本福祉大学への入学を積極的に薦めている。現在二名在学中である。</p>		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会等で知り得た友人と積極的に交友関係を育んでいる。また双方とも施設を訪問し合っている。そして介護技術の向上に努めている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に事前に本人等に施設を見学していただき本人との話し合いを行っている。最低三回以上は行う。</p>		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人入所前に家族等にホームを訪問していただき話し合いを行い、要望等を聴いている。</p>		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護支援専門員が本人と家族等から意見を聴き、支援の方向性を見極め、その後その情報をフィードバックしている。</p>		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の生活歴や出来ること、得意なことを職員は熟知している。得意分野で力を発揮することで生活への張りや生き甲斐につながるようにと職員は個別サービスの支援を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会等を通じて家族同士の融和を図りつつ本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣組友人等のホームへの訪問を積極的に支援している。	入居者の馴染みの友人が電話連絡によりホームに訪問されている。職員は継続的な交流が出来るよう積極的に働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	鈴棟、蘭棟の相互の交流を行い、楽しい生活の場を提供するように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族会等を通じホームから他の施設へ移動した入居者について訪問等を行い、家族等とも連絡を取り合っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と時間をかけて話し合い、意向の把握に努めている。	日常の寄り添いのケアの中思いや意向の把握に努められている。入浴支援時や夜勤時には特に会話が弾むことを伺った。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から必要な情報を提供してもらい経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員研修会を行い一人ひとりの心身状況等の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの見直しについての会議を行い、介護支援専門員が必要な情報を報告し家族等からサインをもらっている。	アセスメントからモニタリングまで職員全員で関わり情報を確認するとともに、入居者、ご家族の希望や要望を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。なお3ヶ月毎の見直しも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝、夜、職員会で情報を共有し見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な範囲でリハビリ等を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者本人、家族等の意向を踏まえ他の施設への転換も図っている。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医との面談を行い、医療についての認識を深めてもらっている。また、かかりつけ医とは二十四時間体制で臨んでいる。	主治医は入居者、ご家族の希望に副ったかかりつけ医となっている。月1回主治医よりの往診による診療も受けられている。緊急で医療が必要になった折には、かかりつけ医や協力医療機関と連携をとり医療に繋げている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの准看護師に必要な応じて、情報を提供している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、ケースワーカー等との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期の意向確認書」及び「事前指定書」等により、家族との話し合いを行っている。	ホームでは看取りの方向にあり、重度化に伴い終末期の意向確認書や事前指定書を入居者、ご家族から頂き話われている。	今後更に、終末期の入居者を支えるために、職員間の連携、職員の力量、その他諸条件等を整え安心した支援に向けた取り組みができるよう期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	広域消防による「応急手当講習会」や、かかりつけ医による初期対応についての勉強会を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防署等との連携を図り、訓練等を行っている。	地域消防署よりの指導の下、年1回入居者も参加して避難訓練を実施されている。	入居者の高齢化に伴いホーム職員による避難には限界が見られる。ホームのみの訓練だけでなく地域住民の参加による協力体制を築かれることを期待する。なお夜間想定を含め入居者の安全な避難に向けた話し合いを持たれることが望まれる。



外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには必要以上の注意を行い、優しい言葉掛けを心掛けている。	プライバシー確保に向けた研修を実施し管理者が指導に当たられており、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底が図られている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傍に寄り添い入居者本人とじっくり時間をかけて話し合う機会を設けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望に沿うように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	管理者が積極的に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が共同して楽しく関わっている。	食事に關する一連の作業(大豆・小豆のより分け、野菜の皮むき、後方付け、食器洗い等)を入居者の出来る範囲で行い、張り合いや自信、楽しみや喜びを引き起こすとともに心身の力の維持や向上につながっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に入居者の状況に応じて支援している。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状態の確認をしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らすように心掛けている。	職員は入居者一人ひとりのトイレサイクルやサイン(姿等)を把握して、入居者の生活リズムに合った排泄支援に努められている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事及び運動について、その予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて行っている。	入浴は週2回午前10時～午後4時の間に希望に応じた支援が行われている。気のあった仲間同士で入浴を楽しんでいる。なお身体状況によりシャワー浴や清拭での対応などの工夫をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重するように努力している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の引継ぎについて確認している。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員等と買い物に出て気分転換を図ったり、食事会を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月一回、戸外に出掛けている。	ホーム周辺を散歩して野花を摘んだり季節感を味わいながら気分転換や身体機能の維持に努められている。なお週3回交代で買い物に出かけ買い物を楽しんでいる。月1回の頻度で食事会等に戸外に出かけられている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望により、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理者が手紙作りを積極的に行い、また家族等との専用電話により、いつでも自由に話ができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観、季節感は随時取り入れている。	明るい共用空間の中の要所要所にバラやカーネーションの花々が飾られ、そこにいだけでほっとするような家庭的な温かさを作る配慮が伺える。なお畳の間に設置された炬燵や広いソファコーナーではゆっくり、ゆったりと居心地よく過せる居場所が確保されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー等を設け、ゆっくり話し合いができる場所を提供している。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力の下、本人の希望を取り入れている。	ご家族の協力の下、入居者が使い慣れた愛用品等馴染みの品(ベット、籐椅子、姿見、ハンガーラック、ぬいぐるみ等)を持ち込み居心地のよい居室となっている。なお居室内に消臭用として壁に珪藻土がインテリア風に埋め込まれ居心地の良い居室への配慮が伺える。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立生活に向けて工夫している。		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の会議と午後の引継ぎ、毎月の職員会議等で日々のケアを話し合い職員の意識合わせや確認を行っている。管理者は日々の様子を視たり、毎日リーダーから報告を受けながら理念の実践に向け助言している。	入居者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援していくサービスについての意義を職員全員で確認し、具体化されたホーム理念を作り上げている。管理者は日々の中で職員と話し合い意見の統一を図り、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会と連携し資源を活用しながらホームを開放している。理科大学生や高校生の実習現場として受け入れを続けている。歌、踊り、楽器の演奏など習い事の発表場所としての訪問や見学に訪れる数も増えており住民との交流の機会は多くなっている。	社会福祉協議会との連携を図り、資源を活用しながらホームを開放されている。歌・踊り・楽器演奏など習い事の発表場所として提供し地域の方々との積極的な交流に努められている。なお理科大学生や高校生の実習現場としての受け入れも行い継続されている。また日常的な散歩や買い物に出かけ地域の人々とふれ合うと共に、お花を届けて頂くなど地域住民と交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の人と家族の会」の冊子を参考に家族会との勉強会を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、市の介護保健課等の意見を聴きサービスの向上を図っている。自己評価、外部評価結果も会議で報告している。	入居者・ご家族・地域住民の代表・茅野市職員等の参加の下年度事業計画・実施事業・入居者状況・サービス状況等を報告し、参加者より質問・要望・意見を頂き、双方向的な会議が行われている。なお自己評価・外部評価の結果も報告されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か不明なことや困ることがあれば出かけて行き相談している。行政担当者とは気軽に相談できる関係が出来ている。	入居に当たり処遇困難事例について行政担当者に相談をされている。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がもたらす弊害について職員がよく理解している。	職員会議において高齢者の権利擁護・成年後見制度の研修を行うとともに、身体拘束廃止についての話し合いを持ち理解浸透や遵守に向けた取り組みが行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての職員研修会を開き、身体拘束廃止について話し合いをしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について研修会を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に先立ち家族等と十分な話し合いを行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通じ意見を集約し、それらを運営に反映している。	運営推進会議や家族会において入居者、ご家族の意見表出の場が設けられ、得られた意見などを職員会議で話し合いサービスに反映されている。なお職員は日常の寄り添いのケアの中より入居者の思いや要望の把握に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会において、意見や提案を聴く機会を設けている。	毎月開催される職員会議や食事会において、意見や提案を聞く機会を設け出された意見等を運営に反映されている。なお毎月の給料受け取り時に意見等を気軽に表出できる場面も設けられている。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が必要に応じて個々の職員と食事会を行い、本人の希望等を取り入れるように努めている。</p>		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会には積極的に参加させ本人の技能等の向上を図っている。また日本福祉大学への入学を積極的に薦めている。現在二名在学中である。</p>		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会等で知り得た友人と積極的に交友関係を育んでいる。また双方とも施設を訪問し合っている。そして介護技術の向上に努めている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に事前に本人等に施設を見学していただき本人との話し合いを行っている。最低三回以上は行う。</p>		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人入所前に家族等にホームを訪問していただき話し合いを行い、要望等を聴いている。</p>		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護支援専門員が本人と家族等から意見を聴き、支援の方向性を見極め、その後その情報をフィードバックしている。</p>		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の生活歴や出来ること、得意なことを職員は熟知している。得意分野で力を発揮することで生活への張りや生き甲斐につながるようにと職員は個別サービスの支援を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会等を通じて家族同士の融和を図りつつ本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣組友人等のホームへの訪問を積極的に支援している。	入居者の馴染みの友人が電話連絡によりホームに訪問されている。職員は継続的な交流が出来るよう積極的に働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	鈴棟、蘭棟の相互の交流を行い、楽しい生活の場を提供するように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族会等を通じホームから他の施設へ移動した入居者について訪問等を行い、家族等とも連絡を取り合っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と時間をかけて話し合い、意向の把握に努めている。	日常の寄り添いのケアの中思いや意向の把握に努められている。入浴支援時や夜勤時には特に会話が弾むことを伺った。	



外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から必要な情報を提供してもらい経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員研修会を行い一人ひとりの心身状況等の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの見直しについての会議を行い、介護支援専門員が必要な情報を報告し家族等からサインをもらっている。	アセスメントからモニタリングまで職員全員で関わり情報を確認するとともに、入居者、ご家族の希望や要望を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。なお3ヶ月毎の見直しも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝、夜、職員会で情報を共有し見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な範囲でリハビリ等を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者本人、家族等の意向を踏まえ他の施設への転換も図っている。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時にかかりつけ医との面談を行い、医療についての認識を深めてもらっている。また、かかりつけ医とは二十四時間体制で臨んでいる。</p>	<p>主治医は入居者、ご家族の希望に副ったかかりつけ医となっている。月1回主治医よりの往診による診療も受けられている。緊急で医療が必要になった折には、かかりつけ医や協力医療機関と連携をとり医療に繋げている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの准看護師に必要に応じて、情報を提供している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院、ケースワーカー等との情報交換や相談に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「終末期の意向確認書」及び「事前指定書」等により、家族との話し合いを行っている。</p>	<p>ホームでは看取りの方向にあり、重度化に伴い終末期の意向確認書や事前指定書を入居者、ご家族から頂き話われている。</p>	<p>今後更に、終末期の入居者を支えるために、職員間の連携、職員の力量、その他諸条件等を整え安心した支援に向けた取り組みができるよう期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>広域消防による「応急手当講習会」や、かかりつけ医による初期対応についての勉強会を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域消防署等との連携を図り、訓練等を行っている。</p>	<p>地域消防署よりの指導の下、年1回入居者も参加して避難訓練を実施されている。</p>	<p>入居者の高齢化に伴いホーム職員による避難には限界が見られる。ホームのみの訓練だけでなく地域住民の参加による協力体制を築かれることを期待する。なお夜間想定を含め入居者の安全な避難に向けた話し合いを持たれることが望まれる。</p>

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには必要以上の注意を行い、優しい言葉掛けを心掛けている。	プライバシー確保に向けた研修を実施し管理者が指導に当たられており、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底が図られている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傍に寄り添い入居者本人とじっくり時間をかけて話し合う機会を設けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望に沿うように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	管理者が積極的に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が共同して楽しく関わっている。	食事に關する一連の作業(大豆・小豆のより分け、野菜の皮むき、後方付け、食器洗い等)を入居者の出来る範囲で行い、張り合いや自信、楽しみや喜びを引き起こすとともに心身の力の維持や向上につながっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に入居者の状況に応じて支援している。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状態の確認をしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らすように心掛けている。	職員は入居者一人ひとりのトイレサイクルやサイン(姿等)を把握して、入居者の生活リズムに合った排泄支援に努められている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事及び運動について、その予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて行っている。	入浴は週2回午前10時～午後4時の間に希望に応じた支援が行われている。気のあった仲間同士で入浴を楽しんでいる。なお身体状況によりシャワー浴や清拭での対応などの工夫をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重するように努力している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の引継ぎについて確認している。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員等と買い物に出て気分転換を図ったり、食事会を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月一回、戸外に出掛けている。	ホーム周辺を散歩して野花を摘んだりと季節感を味わいながら気分転換や身体機能の維持に努められている。なお週3回交代で買い物に出かけ買い物を楽しまれている。月1回の頻度で食事会等に戸外に出かけられている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望により、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理者が手紙作りを積極的に行い、また家族等との専用電話により、いつでも自由に話が出来るようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観、季節感は随時取り入れている。	明るい共用空間の中の要所要所にバラやカーネーションの花々が飾られ、そこにいだけでほっとするような家庭的な温かさを作る配慮が伺える。なお畳の間に設置された炬燵や広いソファコーナーではゆっくり、ゆったりと居心地よく過せる居場所が確保されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー等を設け、ゆっくり話し合いが出来る場所を提供している。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力の下、本人の希望を取り入れている。	ご家族の協力の下、入居者が使い慣れた愛用品等馴染みの品(ベット、籐椅子、姿見、ハンガーラック、ぬいぐるみ等)を持ち込み居心地のよい居室となっている。なお居室内に消臭用として壁に珪藻土がインテリア風に埋め込まれ居心地の良い居室への配慮が伺える。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立生活に向けて工夫している。		